

目的・目標

- 特別支援学校と小・中学校が相互に情報を共有しながら、交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方や従来の枠組みに捉われない体制等について、十分な研究と検討を積み重ね、児童生徒の変容を検証していくことにより、すべての児童生徒が安心して学ぶ環境をつくり、可能な限り、地域の学校で共に学ぶ仕組みの基盤を構築することを目指す。

学校運営連携校

横浜市立若葉台特別支援学校(障害種)肢体不自由障害(A部門)、知的障害(B部門)
横浜市立若葉台小学校
横浜市立若葉台中学校

隣接型

カリキュラム・マネージャー

横浜市立若葉台小学校 教員(正規職員)
小学校勤務10年、特別支援学校勤務9年

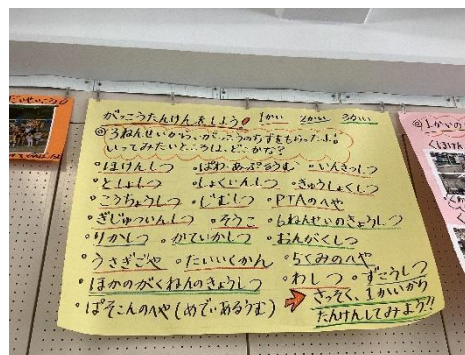
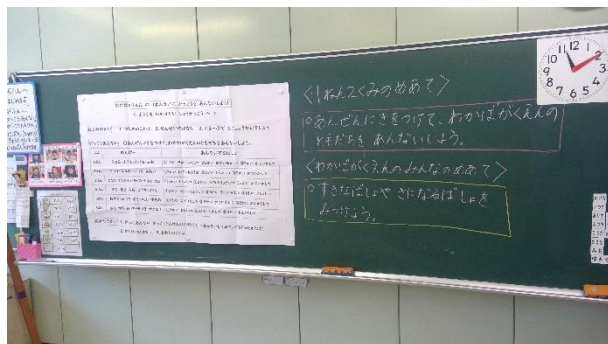
取組概要

【ねらい】

- ・ 単発での交流及び共同学習の実践で終わることがない、継続的に実施できる教科や単元を検討・検証していく。
- ・ 共に学ぶ単元で、特別支援学校と小・中学校の児童生徒それぞれに、育成を目指す資質・能力を検討していく。

【取組概要】

- ・ 主に特別支援学校小学部1年生と小学校1年生において、交流及び共同学習を実施
- ・ 実施する単元については、カリキュラムマネージャーを中心に、小学校・特別支援学校の双方の担任と連携を取りながら検討して決定。
- ・ 実施できる教科や単元は、児童生徒が入りやすく、かつ、安定して継続的に実施できる教科・単元を想定して実施
- ・ 特別支援学校の児童が、既存のスクールバスに乗り、小学校を訪問することで実施。



①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

- ・ 内容に応じて適切な環境（ホール、各グループごとの教室、校庭等）を設定し、小学校一般学級、個別支援学級、特別支援学校の児童が参加できる場を設定。
- ・ オンラインによる挨拶交流や共同学習の成果（作品）を共有する等、相互評価の場面を設定。
- ・ 学習者の発達段階、障害特性に応じて視覚的な資料を多めに取り入れて実施
- ・ 特別支援学校にある教材、教具を活用し、誰もが参加できる活動を設定。

交流及び共同学習の実績	主な対象学年:	若葉台特別支援学校小学部1年 若葉台小学校1年（国語の単元で、6年生とも実施）
	回数・教科:	計7回（生活：1回、図工：2回、音楽：1回、学活：1回、国語：2回、）
	主な内容:	生活： がっこうたんけん 図工： やぶいた かたちから うまれたよ、ならべて ならべて 音楽： フルーツケーキ 学級活動： きもちをつたえよう きもちをしろ 国語： 6年生の読み聞かせを聞こう、お店やさん



②現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

- ・ カリキュラムマネージャーは、小学校在籍の正規職員（個別支援学級の担任）とし、特別支援学校の兼務辞令を発令したうえで、週2回特別支援学校で授業、児童支援を行いながら、カリキュラムマネージャーとしての業務を実施。
- ・ 加えて、特別支援学校在籍の教員（1名）についても、小学校との兼務辞令を発令し、週1回小学校で授業、児童支援を実施。
- ・ 共同学習では、主たる授業者（メインティーチャー）を小学校の学級担任とした。授業内のグループ活動は、両校児童混合として、1つグループを小学校4～5名、特別支援学校1名とし、各グループにサブティーチャーとして特別支援学校の教員を1名配置したうえで、グループの児童全員への支援を行っている。これにより、両校児童に必要な課題や配慮を把握しながら、適切な支援をしながら学習活動を進めている。
- ・ そのほか、横浜国立大学D&Iセンターから複数名が常に参加し、授業の記録・アセスメント・分析等を担当している。



本事業
の成果

- ・ 共同学習において、「学びに向かう人間性」を共通の目標とし、インクルーシブな学びの在り方について検討をすることができた。
- ・ 共同学習の前後の時間での児童同士の自然な触れ合いが生まれている。また、回を重ねるごとに、お互いに声を掛け合う場面や、挨拶をする場面が増えた。
- ・ カリキュラムマネージャーは、小学校と特別支援学校を兼務することにより、児童の実態を把握したうえでの学習単元の提案ができたとともに、必要な支援方法や児童に適しているコミュニケーションについて、常に両校の教員と情報交換をしており、それぞれの児童の相互理解をスムーズに進めることができた。
- ・ また、本市独自に兼務辞令をした特別支援学校教員については、小学校勤務を通して、特別な支援が必要な児童の状況を把握するとともに、支援を行っている。また、人的環境のユニバーサルデザインの視点を踏まえた言葉かけなどをしながら、児童同士の学び合いのサポートをすることができた。
- ・ 兼務発令と両校での支援等により、両校間の意識の共有が進んだり、連絡調整等を円滑に進めることができています。

課題と
今後の
展望

【課題】

- ・ 教科学習におけるそれぞれの学習目標の達成と、非認知能力部分における目標設定の在り方
- ・ 小学校での授業における教室等の環境の更なる工夫
- ・ 目標達成を踏まえたカリキュラムや単元の中で効果的な活動や位置付けの整理
- ・ 物理的条件や特別支援学校に在籍する児童の実態、教職員の取組への共通理解の持ち方
- ・ 交流及び共同学習の開始当初に必要な体制と、それぞれの児童生徒理解が進んだときとの、教員体制の比較検討
- ・ 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや兼務の教員が中心となり、センター的機能による小学校への支援
- ・ ユニバーサルデザインの視点からの授業改善への協力、支援

【今後の展望】

令和7年度において、カリキュラムマネージャーの専任化、活動の規模（グループ活動において、何名の支援が必要なのか）の検討、兼務発令を踏まえた支援体制の検討等により、安定的に教科学習における交流及び共同学習ができる環境、支援体制の構築を目指す。